令和８年度

「運営に関する計画」

（中間）

大阪市立苅田北小学校

令和８年 10 月

（様式１）

大阪市立苅田北小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

・令和 7 年度学校アンケート「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 81.5%であった。

・令和 7 年度本校の不登校在籍比率は 5.5%で大阪市の 1.95%を大きく上回っている。また、30 日には満たないものの休みがちな児童や遅刻する児童も多い。多い時には 20 人を超える児童が 1 時間目が始まった後に登校する。

・不登校の原因はさまざまであるが、長期化するともともとの原因が何だったかよりも、来ない状況を改善すること自体が難しくなっていく傾向がみられる。登校しづらい状況が見られたときの初期対応に注力していくために、担任が一人で抱え込まずにチームで対応できるようにしていく必要がある。児童や保護者の思いに寄り添いながら、専門家や各種機関との連携をさらに厚くしていく必要がある。どの子にとっても安全・安心で居心地の良い居場所づくりに努めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・《令和 7 年度の大阪市学力経年調査の国語、算数の結果》
　大阪市を 100 とした時の本校の点数

国語	R6	R7
３年		95,7
４年	87.6	89.1
５年	100.6	94.4
６年	96,1	90.5

算数	R6	R7
３年		89.2
４年	90.2	83.7
５年	93.8	94,2
６年	85.6	97.8

・本校は大阪市の平均を大きく下回っていることが多い。令和 6 年度は研究教科国語 3 年目であったため大阪市の平均に近づいていた。今年度は研究教科を算数とし、国語が少し下がり、算数は向上がみられる学年もある。

・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果は、体力合計点の対全国比は男子は 5 下回り、女子は 2 ポイント上回った。例年本校は男女とも全国平均を上回ることが多い。

・令和 7 年度は課題であったシャトルランについて年 2 回記録をとり、着実に向上していることが分かった。

【学びを支える教育環境の充実】

・教員の平均時間外勤務時間（累計）は令和 6 年度が 22 時間 41 分、令和 7 年度（2 月段階）が 19 時間 11 分であり、大阪市の平均 23 時間 34 分を大きく下回っている。

・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 6.1％であった。欠席児童が多い月も多く、校内での使用率は向上している。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 11 年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。

○令和 11 年度末の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。

○令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」の項目について、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を 86%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を 65%以上にする。

○教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 81%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、81%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査の算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85.2%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を 60%以上にする。

○教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。

3　本年度の自己評価結果の総括

（様式例２）

大阪市立苅田北小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 81%以上にする。 ② 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、81%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現】 悩みを抱えている児童が相談できる環境を設定し、課題解消を目指す。	B
指標 ・学校アンケート「困っていることを先生やおうちの人に相談している」において肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 互いを認め合うことでより良い学年、学級集団を目指す。	B
指標 ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 ・学期に１回は、互いのよさを伝え合う活動を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

学校アンケートの「困っていることを先生やおうちの人に相談している」において、肯定的に回答する児童の割合が学校全体で７７．５％と、目標の７５％を上回ることができた。月に１回のいじめアンケートを行うことで、相談しやすい環境・関係づくりを行ってきた。また、いじめアンケートをすることで、より児童同士の関係に気を付けて観察し、声掛けをおこなってきた。３年生以上は、教科担任制をとっているため、担任の先生以外の先生にも相談する児童もいて、相談する窓口が増え、安心して学校生活をおくることにつながっている。

取組内容②

指標として、小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする

と定めているが、中間評価の時点では経年調査が未実施であるため、学校アンケートの「自分にはよいところがある」といった類似質問を活用し、 進捗状況を把握することとした。その上で当該質問において、肯定的に回答する児童の割合が学校全体で８０．３％という結果となった。これらの結果は、各学級での継続的な取組によって支えられているところが大きい。具体的には、友達のよいところを共有する「キラキラの木」や席替え時に感謝を伝える「ありがとうカード」などがあった。取組は効果的であったことから、学級の実態に応じてこれらの互いに認め合う活動は、継続して行っていく。児童間での認め合いをねらいとした活動を中心に行いつつ、教師発信でも個別によいところを認め、児童の自己肯定感の向上を図りたい。
次年度への改善点

（様式例２）

大阪市立苅田北小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ③ 小学校学力経年調査の算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85.1%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 徹底反復学習に取り組み、基礎基本の定着を図る。	B
指標 ・時期に応じて週に２度、１回 15 分間の漢字、計算の反復学習に取り組む。 ・計算力の調査を年に 2 回行い、昨年度の学年相当の問題の点数を１ポイント以上向上する。	
取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 わかる授業を創造することを目指し、指導力向上のため、計画的に研修や教材研究に取り組む。	B
指標 ・計画的に全体授業に取り組み、各教員が 2 回以上参観する。 ・週に１回学年打ち合わせ等で、よりよい授業展開について話し合い、教材研究に取り組む。	
取組内容③【基本的な方向５　健やかな体の育成】 体力向上と進んで運動する意識を高めるための取り組みを行う。	B
指標 ・なわとび週間を年２回（２、３学期）設定し、進んで運動をする意識の向上を図る。 ・体力が伸びたかを調べるために、シャトルランの記録を年２回（１、３学期）測る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

算数科においては、各学年の実態や個別に合わせた計算プリントを用意し、取り組むようにしている。１分間でどれくらい解けたか、プリントを終えるのに何分かかったかなど、前と比べて間違いが減ったかなど、個人の伸びを実感できるように工夫して取り組んでいる。

また、4 年生以上は２学期以降は１月の漢字検定に向けて自分の目標の級を達成できるように、週１回以上個に応じた課題に取り組む時間を設定する。

取組内容②

年度初めに一人一授業の予定を設定することで、各教員が２回以上は参観する体制をとっている。互いの授業を参観し、学びあう意識の向上につながっている。

週 1 回の学年の打ち合わせでは、週の予定を確認しながら、学習の進度や授業展開について検討している。学年によっては、授業形態を変えて授業をすることで、子どもの学習意欲の向上につながっているところもある。また特に研究授業の時には、板書計画、掲示物、プレ授業、模擬授業などを行うことで、普段以上に深く教材研究することができ、授業力の向上につながっている。

取組内容③

例年６月ごろには、昼になると気温が上がり運動場で遊べなくなる。そのため、1 学期にモーニングアクティビティ（しっぽとりやダンス等）を行った。その結果、朝から楽しんで運動しようとする意識が高まった。また、いつもより早く登校する児童が増えた。

今後、なわとび週間を行ったり、３学期にはシャトルランの記録（２回目）を測ったりする予定である。集団で運動する楽しさを味わわせたり、個人の記録の伸びを感じさせたりすることで進んで運動する意識を向上させたい。

次年度への改善点

（様式２）

大阪市立苅田北小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ⑤ 学校アンケート「タブレットをよく使っていますか」の項目において最も肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。 ⑥ 教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。 ⑦ 学校アンケート「本を読んだり読んでもらったりすることが好きだ。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【**基本的な方向６　教育ＤＸの推進**】 学習端末を計画的に使用し、活用率を上げる。 指標 ・各学年１日に１回学習者用端末を活用する	B
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 仕事の効率化を図り、勤務時間内に仕事を終わらせる意識を高める。 指標 ・月４回のゆとりの日を設定する。 ・教職員の空き時間を確保する。	B
取組内容③【基本的な方向８　生涯学習の支援】 図書室を充実させ、読書好きの児童を育てる。 指標 ・図書委員が月１回読み聞かせや本の紹介をしていく。 ・図書館だよりを学期に１回発行する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

９月の学校アンケート「タブレットをよく使っていますか」の項目において最も肯定的に回答する児童の割合は約 53.2%と、現時点では目標の数値を超えている。また、心の天気の入力を徹底したことや、連絡帳の配信を始めたことで、活用率はほとんどの日で 80%を超えていた。さらに、デジタルドリルを使って自学習や家庭学習を推奨し、授業でもスカイメニューの使用や観察の記録などの場面で活用している。

しかし、充電が不十分であることや、授業での活用頻度が教員によって差があるなど、課題もみられるので、改善が必要である。

取組内容②

９月末現在、学校教職員の平均時間外勤務時間（累計）は 17 時間７分で目標を達成している（昨年度実績（累計）19 時間 19 分)。月４回ゆとりの日を設定できている。設定された退勤時間を守り退勤している。月ごとに昨年度のその月の平均勤務時間との比較が周知されることで、平均時間外勤務時間への意識付けが行われている。また、教科担任制を取り入れることで、教職員の空き時間の確保ができ、その時間に事務的作業や授業準備などが行うことができている。会議も事前に資料が配られていることで確認しておくことができ、会議の時間を短縮することにつながっている。

一方で、教科担任制では、学級担任が学級にいる時間がどうしても減ってしまう。クラスでトラブルが起こった時に、対応が後手になってしまうことが課題としてある。そのため専科を除いて、学年を大きく跨いで授業を担当したり、多くの時間を一人の教諭に割いたりするより、できるだけ学年団内で分担したほうがよいと考える。

取組内容③

学校アンケート「本を読んだり読んでもらったりすることが好きだ。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 63.9%であった。図書司書の先生に読み聞かせをしてもらうときは本の世界を楽しんでいる児童が多くいるように思われる。後期には、高学年が低学年に読み聞かせをする「ペア読書」を計画しており、読書に対して肯定的に回答する児童の割合をさらに伸ばしていく機会としたい。

委員会による読み聞かせや本の紹介を行っているが、周知が足りず、おすすめ本の紹介などは図書室で掲示しているため多くの児童が目にすることが少なかった。今後紹介の方法を工夫しより多くの児童に本に触れ合う機会を設けていきたいと考える。

次年度への改善点

（様式例３）

令和　年度　　学校関係者評価報告書

大阪市立　（学校園名）　学校協議会

1　総括についての評価

2　年度目標ごとの評価

年度目標：
年度目標：

3　今後の学校園の運営についての意見
